流水の正常な機能の維持（既得取水の安定化及び河川環境の保全）の必要性について

ダムの目的の一つとして流水の正常な機能の維持（既得取水の安定化および河川環境の保全）があります。この目的の達成のために必要な水量を通称「不特定用水」と呼んでいる。簗川には既得の利水として農業用水と水道用水（沢田浄水場の取水）がありますが、これらの既得用水が渇水時でも安定的に取水でき、これらを取水した後でも、河川に生息する魚類等の生息環境を満足するような水量を確保する必要があります。

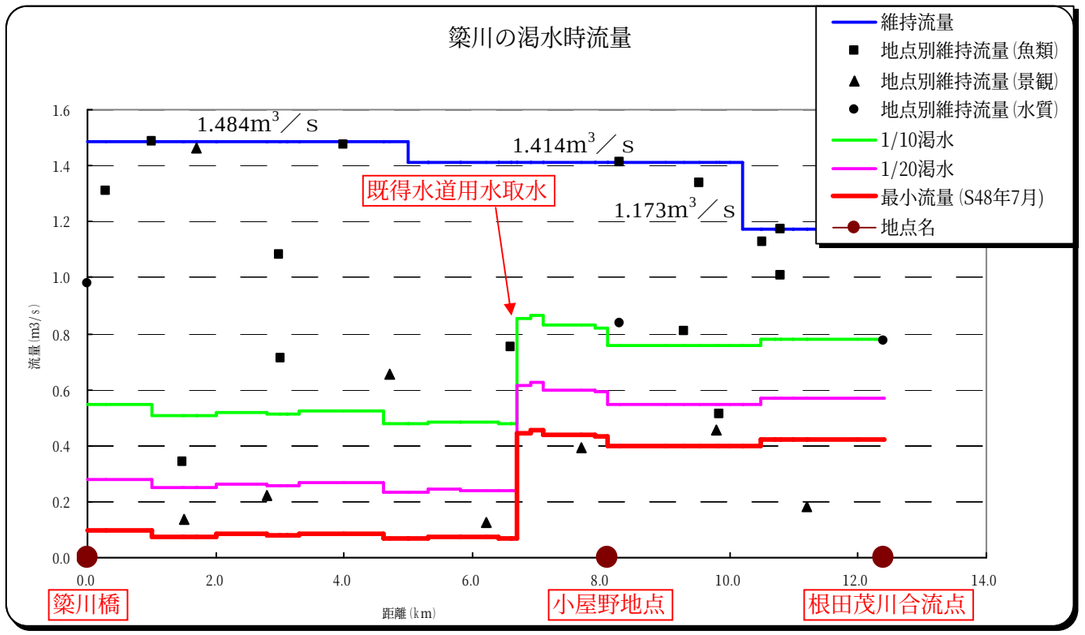
簗川における取水地点

水道用水取水（盛岡市取水堰）

農業用水取水（ささどめ）

○過去の渇水時における河川の状況

昭和48年７月渇水においては、盛岡市沢田浄水場への取水はまだ行われていなかったため、それほどひどい渇水ではなかったと考えられますが、現在のように水道水の取水が行われていたなら、川の水が少ない状態となっていたことが推測されます。



河川環境の保全に必要な流量（維持流量）は、主に魚類の良好な生息環境の確保、良好な景観の確保、水質保全の観点から各代表地点でその必要流量を算定して決めています。

簗川ダムでは、魚類の良好な生息環境の確保のための必要流量（水深で30㎝）で維持流量を設定しており、簗川橋基準点で、1.484m^3/sとなっています。

これに対し、昭和48年の１/10渇水流量は0.53m^3/s、最小流量は0.08m^3/sとなっており、良好な河川環境を保つためにはダムからの補給が必要となるものです。